

## ▼チオデロンカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】 メピチオスタンカプセル mepitiostane 【分類】 経口腎性貧血用剤・抗乳腺腫瘍剤

【単位】 ▼5mg/Cap

【常用量】 20mg/日

【用法】 分2

【透析患者への投与方法】 透析患者でも腎機能正常者に比し血中濃度が上昇しない(1)ため減量する必要なし (5)

【その他の報告】 ESA が市場に出るまでは腎性貧血に汎用されていたが現在はほとんど使用されていない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 強力な抗エストロゲン作用及び抗乳腺腫瘍作用を示し、臨牀的に再発乳癌に対し優れた効果が認められている。また骨髄に直接作用し、CFU-E を増加して造血効果を発揮する。生体内で代謝されてエピチオスタノールを生じ、エストロゲン受容体に結合することで抗エストロゲン作用を発揮すると推測 (1)

【主な副作用・毒性】 発疹、掻痒、肝機能異常、男性化作用、体重増加、消化器症状、多幸症、脱毛など

【安全性に関する情報】 高齢者では Na または体液の貯留、高 Ca 血症等があらわれやすい (1) 催奇形性がある (1)

【Tmax】 2～4hr (1)

【代謝】 メピチオスタンのメトキシシクロペンチール基がはずれたエピチオスタノールに代謝され、一部は、エピチオ基の酸化、脱硫を経てメピチオスタンオレフィンとなり、ついでメトキシシクロペンチール基がはずれてエピチオスタノールの代謝経路に入ると考えられている (1)

【排泄】 尿中回収率約 30% (1) 腸肝循環を受ける (1) おそらく尿中未変化体排泄率は低い (5)

【t1/2】 数時間 (1)

【蛋白結合率】 データなし (1)

【Vd】 おそらく大きい (5)

【MW】 404.65

【透析性】 HD 患者における反復投与でも蓄積なし (1) 効率的には除去されないと思われる (5)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない

【O/W 係数】 資料なし (1)

【備考】 胆汁うっ滞があると効果が期待し難い (1)

【更新日】 20171219

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。